

カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業

カラーユニバーサルデザイン推進支援講座 **2022**

アンケート集計結果報告

カラーユニバーサルデザイン推進支援講座 アンケート

カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業 (2022 年度 愛知県委託事業)

今後の活動改善のため、差支えない範囲でアンケートにご協力をお願いします。なおアンケート結果は愛知県に実施報告書の一部として提出し、個人や団体を特定する記述を除いたうえで当会ホームページでも掲載の予定です。

1. あなたの所属部署はどちらですか。

2. あなたは色覚について関心がありますか(一つにチェック☑を入れてください)

- 色弱や色覚 (色の見え方)の多様性について、これまであまり意識したことがなかった。
- 所属する部署や関係部署に色弱の(あるいは色弱の可能性のある)同僚がいるため、以前から関心があった。
- 自分自身また身近な親族等が色弱であるため、以前から関心があった。
- その他 ()

3. 今回の推進講座は、あなたにとって有益でしたか(一つにチェック☑を入れてください)。

- ひじょうに有益だった
- まあまあ有益だった
- 普通
- あまり有益ではなかった
- 意味がなかった

4. 今回の推進講座の時間は適切でしたか(一つに☑を入れてください)。

- 長かった
- 少し長かった
- ちょうどよかった
- 少し短かった
- 短かった

5. その他の感想(本日特に印象に残ったこと、疑問をもたれたこと、今後どのような講座があればよいか等、自由にお書きください。)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

アンケート実施および集計

講座開始時に参加者全員にアンケート用紙を資料とともに配付、講座終了時に5～10分程度の時間を取って記入してもらい当日回収した。全体の回収率は85%(全参加者122人のうち104人が提出)。会場別の回答者人数は刈谷会場10人(参加者10人)、あま会場8人(参加者8人)、春日井会場18人(参加者19人)、豊川会場19人(参加者19人)、愛知県会場35人(参加者36人)、愛知県(オンライン)14人(参加者30人)であった。会場ごとの集計結果は、本事業の実施報告書に添付資料として2023年3月に愛知県に提出した。

このアンケート集計結果報告は、当会のウェブサイト公開用に改めて編集したものである(2023/09/03作成)。ウェブサイトに掲載している内容(イベント情報>報告>自治体との協働)に即し、アンケートの質問項目のうち講座の有用性を問う第3項目と、感想を自由に記述してもらった第5項目のみの報告となっている。

本講座の評価

アンケート第3項目では、問い「今回の推進講座は、あなたにとって有益でしたか(一つにチェック☑を入れてください)」と、回答として「ひじょうに有益だった」、「まあまあ有益だった」、「普通」、「あまり有益ではなかった」、「意味がなかった」と「その他」の6つの選択肢を設けた。アンケート全回答者104人中85人(81.7%)が「ひじょうに有益だった」、16人(15.4%)が「まあまあ有益だった」、2人(1.9%)が「普通」、1人(1.0%)が「あまり有益ではなかった」と回答、それ以外は0%であった。

表1 アンケート第3項目の回答集計結果

3. 今回の推進講座は、あなたにとって有益でしたか(一つにチェック☑を入れてください)。														
回答選択肢	刈谷市		あま市		春日井市		豊川市		愛知県		愛知県(オンライン)		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
ひじょうに有益だった	10	100%	5	63%	17	94%	19	100%	30	86%	4	29%	85	81.7%
まあまあ有益だった	0	0%	2	25%	1	6%	0	0%	5	14%	8	57%	16	15.4%
普通	0	0%	1	13%	0	0%	0	0%	0	0%	1	7%	2	1.9%
あまり有益ではなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	7%	1	1.0%
意味がなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0.0%
その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0.0%
計	10		8		18		19		35		14		104	

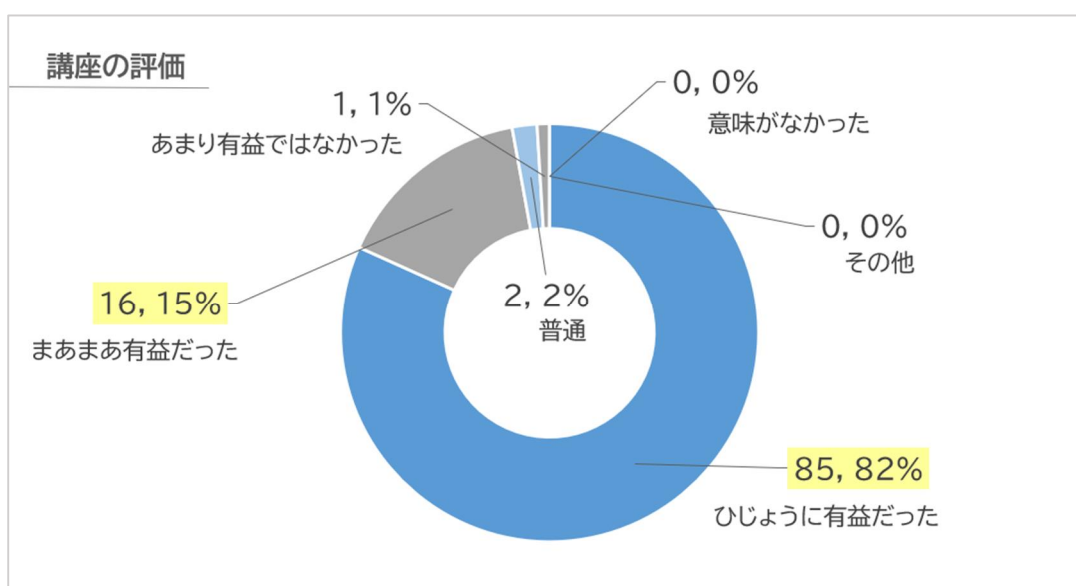


図1 講義とワークはあなたにとって有益であったか (2022CUD 推進講座の評価)

自由記述集

アンケート最終設問である第5項目は、「その他の感想(本日特に印象に残ったこと、疑問をもたれたこと、今後どのような講座があればよいか等、自由にお書きください)」とした。以下、ほぼすべての自由記述を掲載する(明らかな誤字、脱字や語法の誤りのみ修正、掲載順序不同)。

- ・パンフレットやチラシなどを実際に何色やどんな表現に変えたらよいか、PC等で修正する作業を試みるのもよかったです。
- ・実際にP,D型の方のお話を聞くことができ、より身近な問題・課題であると感じました。
- ・私が色について常識だと思っていたことがそうじゃないということがたくさんあって、私じゃわからないこともたくさんあるので、もっと色弱の方とお話をする時間があると良いと思いました。
- ・P型、D型といった色弱にも差があることを学んだ。明度差も重要で、薄いのと明るいのとで見え方が変わることを、文章や文字で表示することも重要であることも学んだ。
- ・講座の冒頭で色弱者の割合について私自身知識がなく(男性で20人に1人)、非常に高いものとわかりました。これをふまえて今後の施設の建築へ配慮していきたいと感じた。
- ・色の組み合わせを覚えるのは難しいので、ソフトを使いながら色以外の情報を的確に加える工夫の必要性を強く感じました。
- ・学校の委員会や係活動でポスターをつくったりする時があります。背景が白のときは蛍光の色はうすいので文字などに使わないようにしたりしています。ですが、色弱の方だと赤が黒に見えたりしてしまうと聞いたので、黒い文字の中に赤い文字を入れても、本当に伝えたい情報が平等に伝えられないという状況になってしまっていたことがわかりました。次からは、みんなに本当に伝えたい情報が伝わるように太くしたりしたいです。
- ・色弱をお持ちの人と実際にお話しする機会がなかったので、本日お話することができてすごく勉強になりました。普段から意識していたこともありましたが、まだまだ知識や意識が至らず、もっともっと勉強していかないといけないなと感じました。これからは広報紙を作成していく上で、情報の格差がカラーデザインで生まれないようにしていきたいと思います。
- ・「気を付けなくては」と思っていたものの、本日の講座で実際にいろいろな色をどのように見えるのか確認したところ驚きがあり、意識をもっと持たなくてはと思いました。また配色だけではなく言葉などの別の情報も補うことにも気を付けていきたいです。
- ・景観条例(刈谷市ではありませんが)や屋外広告条例では、建物に使用する色の明度・彩度を制限していますが、その制限について、CUDの考え方が反映されているのか疑問に感じました。
- ・これまで配色にはこだわって印刷物を作ってきましたが、CUDの観点は今日始めて意識したため、もしかしたらよく見えていなかったかもしれないと反省しました。今後はアプリ等を活用しながら配色、あるいは色に頼らない方法を考えていけたらと思いました。
- ・色弱という言葉は知っていたが、実際にどのように見えているのか、はっきり知らなかった。この講座によって色弱の方がどのように見えているのか体験できてよかった。
- ・講座で聞くだけでなく実際にバリエーションをかけて見ることで、色弱の方の視界を体験できることが非常に良かったです。実際に市で配布しているものを見て学び、自分では気づけない見えにくさに気づくことができました。とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・こういった機会がなければ、色の見え方が違う方に配慮したチラシ等を作成することの重要性ということを考えていなかったと思います。特に防災に関することはいざという時にとても重要になってくると思いました。今後の刊行物作成に役立てたいと思います。
- ・視覚について、色弱者の立場になって考えるということは今回初めてだったので、貴重な体験ができました。今回のチラシ、パンフレット作成の際に思い出しながら取り組みたいと思います。
- ・同じ印刷物等を見ていても、人によって見え方が全く違うということが分かり、今後の施政に生かしていきたいと思えます。
- ・色弱の方がいるという認識はあったものの、自分の見やすさ、好みを意識して配色をすることがほとんどであった。今後アプリ等を活用していきたいです。
- ・ワークと当事者の方の話が聞けたことがよかった。
- ・チラシ作成時に、色の名称をあわせて記載するとわかりやすい事がわかった。組み合わせで表現する事が有効。
- ・IKEAとTSUTAYA、暖色と寒色で作成しようと思いました。色での説明はこれを機にやめようと思います。
- ・CUDのとりにくみは皆にとってよい取りくみと感じました。
- ・一つに色弱といってもP型、D型、等種類があることを知った。自分で5色選んだ際、ミッフィーが使われているような色合

いだと思った。絵本等見直してみたい。チラシやポスター作成の際にCUDも意識したい。

- ・バリエーションをかけてみた際の色の見え具合が衝撃的で、今後チラシ等を作る際の色選びに注意しようと感じた。
- ・強度の人の見え方は、想像しづらい程のものだと感じました。アプリ等で確認することが大切だと思いました。
- ・自分では分かりやすい(見分けやすい)と思っていた色の組み合わせが、見分けにくかったり、気づきが多い講座でした。今後、アプリを使って色の確認をしたいと思います。
- ・色弱の方が特に見分けにくい色の組み合わせについて少しは理解できましたが、当事者の方でも個人差があり、簡単に自分で判断するのは難しいと思う部分もありました。色のシミュレータなどで確認しながらチラシの作成などしていきたいと思いました。
- ・いつも使っている赤と黒の組み合わせがとても分かりにくい組み合わせだったということに驚きました。CUDを活用するのはとても難しいことなのかなと思っていましたが、少しの工夫や付け足しで色弱の方もより分かりやすい表現の仕方ができると知ることができ、とても参考になりました。
- ・実際に話を聞くことができて良かったです。すぐに活用していきたいです。誰にでも分かりやすく心掛けていきたいです。
- ・色弱の方は赤と緑の区別がつきづらいというくらいの知識しかなかったが、今回の講座である程度の知識を得ることができた。色以外にも文字にフチをつけるなどの工夫が必要であるということ学んだ。
- ・色のわかりやすさもそうですが、白抜いてみたり、数字等色によらない区分けをしたり、どんな人にとってもわかりやすくするための工夫や心がけが大切だと思いました。
- ・色弱や色覚について正しく理解して、誰にでも分かりやすいチラシやパンフレットづくりを心がけたいです。
- ・普段よりモノクロの印刷をすることが多く、色分けにはあまり注意していませんでした。色の中に文字・記号でわかりやすくするというのは勉強になりました。注意してデザインするようにしてみます。資料作成等で色分けする際にも注意します。
- ・自分自身の見易い色、強調したいところに「赤」と勝手に決めてしまっていた。消防は、赤色というイメージがあると思いますが、その赤は黒に近く見えてしまうことが分かりました。この研修を参考にしてポスター作成をしていきます。ありがとうございました。
- ・見え方について少しは知識がありましたが、バリエーションを使わせていただき、体感できたのでとても良かったです。
- ・恥ずかしながら色覚について知識不足であったため、バリエーションを使って疑似体験ができたことがとてもよかったです。

です。こんなに色の区別が難しいことにびっくりしました。色を使って市民の方に案内してしまった(外国人の方等で日本語が難しい方)こともあったなど反省しています。

- ・破線や斜線など、「色以外の方法により色のちがいを表現する方法」があることに気づいた。初めて会う人、まだ出会ってまもない人などが色弱者である場合に、本人が言わなくても「色弱者かも？」と気づける方法があれば、聞いてみたかった(あれば)。また、当事者が色弱者であることを(わかりやすく言うところの)恥や気にするものか、も聞いてみたかった。
- ・まず色弱の方がどのように色を見ているのか、判断しているのかということが聞けましたし、実際に自分が体験して、今後の自分の行動を変えていかなければと感じました。資料を作成するときに配色のきれいさを意識していましたが、後は研修の内容を取り入れていきたいと思いました。
- ・CUDのすぐに実感できるポイントを自分の中で整理して持っておくようにすれば、日々のちょっとしたタイミングで反映していけると感じました。
- ・バリエーションをかけて見て、赤と緑が同じように見えることをはっきりと知った。色抜きや色の表示などの工夫で分かりやすくなるのが勉強になった。色弱の方が色を見分けているのがすごいと思った。
- ・CUDの必要性は以前から知っていましたが、普段の業務ではそれを意識せずチラシ、印刷物を作成していましたので、今回の講座を受講してCUDの重要性を認識することができました。色彩に頼りすぎず、文字や記号を併用してデザインを作っていけば、誰が見ても分かりやすいものを作れるのではないかと思います。
- ・色分けには限界があること。文字の大切さ。
- ・今回頂いたCUDガイドブックを参考に、様々な発行物を作成していきたいと思います。研修では配色等がメインでしたが、写真の使用も気を付けたいと思いました。
- ・今まであまり意識していなかった色覚でしたが、見え方がここまで違うとは思わなかった。色のみでなく文字や大きさも重要であると学べました。一点講座で感じた所としては、細かな表やグラフを多く提示されており、聞き慣れない言葉が多かったので、レーザーポインター等で示していただけると今この説明をしているか、より分かりやすくなるかと思いました。
- ・紙の色を紙自体に表記することも必要だということがわかりました。
- ・公園パンフレットを15年ほど同じデザインで使用していたが、CUDの取り組みができていないことに気づくことができました。コミュニティバスの路線図を考えて作ったつもりでしたが、実際は見えにくいことがわかりました。

- ・今まで十分に理解できていなかったため、カラー印刷する際は明確な濃度の差がある色などで表していました。しかし今回ワークを行うことで、同じ濃い色でも、例えば赤と緑は見分けにくく、彩度も合わせて考える必要があると学びました。貴重な機会をありがとうございます。
- ・色弱というのは特定の色がわからないのだと思っていましたが、総合的な色味が異なって見えるということを知りました。カラー印刷する広報物などについて、色合いの鮮やかさや通常の見やすさだけでなく、多様性の視点を持って作成、来客者への案内をしたいと考えました。
- ・色による情報の区別は日常的に行われているが、多様な色覚を配慮した色分けの重要性を感じた。しかし配力の難しさも同時に感じたところなので、色に頼らない区別の方法も通常取り入れていきたいと思った。
- ・色弱の方の実際の見え方のお話や、バリエーションをかけて自分自身が体験することで、ピンクがわかりづらい、あわい色の判断がむずかしいということがわかりました。今回初めてこのような講座に参加し、とても勉強になりました。
- ・CUDの名前は知っていたが、実際の配慮はできていなかったです。今後制作をする時は意識していきたいです。今日の話では時間が足りなかったのですが、ポスターや印刷物、ディスプレイの違いも自習してみたいです。
- ・パンフレットの作成の際は参考にさせていただきます。
- ・これまで色弱の人というのは「見え方が違う」というイメージだったが、色弱体験等を通じ、どちらかというところ「色が分からない」という感覚に近いという気づきがありました。広報やホームページの担当をしているので、今後活かせる点を考えていきたいと思います。
- ・色弱の体験をすることができ、色による情報が届かない場合に困ることが分かった。概念として、色のみで伝えようとするのではなく、形や【補足】情報で伝えていくことが大切であることを知ることができてよかった。ただ、どうやったら改善できるのかを知ることで活用できると感じた(自分で学びたいと思えた)。
- ・色弱の方がどのように見えるのか想像ができてなかったのが、少しイメージを持つことができたことが勉強になりました。色のユニバーサルデザインの視点をまずは持って配布物など作成できたらと思います。周囲からは分かりにくい生きにくさであるだけに、気づきを持って業務に取り組みたいです。ありがとうございました。
- ・赤と緑は反対色なので、誰でも見分けやすいと思っていたが、濃淡などが同じだとほぼ同じ色に見えてしまうことを知って大変驚いた。「色のシミュレータ」アプリや「バリエーション」など便利なものを今後のパンフレット作りに生かしていきたいと思う。
- ・今まで意識したことのないことばかりだったので、とてもいい機会だった。
- ・(もう少し聞きたかったこと)色覚の特性により実生活で困ったこと(改善点)、就職や仕事で困ったこと(色覚特性のためになりにくい職業や業務があると思います)、委託業者などのように色味の注文をしたらよいか
- ・説明の資料と机上の資料が異なっていたのが少し不便でした。通知では会場参加者へは資料配布されるとのことだったので準備できませんでした。準備しなかった私の不手際ではあるのですが、スライドと机上資料が異なる場合は教えてもらえるとPC持参や資料の準備ができるのでありがたいです。よろしくお願いします。ありがとうございました。
- ・色弱という一般の方には説明を行うことが難しい点について、実際にポスター等を使用し、また色弱者の方の意見を伺いながら経験できたことは非常に有益だった。区別しやすい色の組み合わせやフォント、色名を書くといった簡単にできる対応一つで色弱の方にとっても分かりやすい資料になることがわかったのは良かった。(今まで色弱の方への対応は中々難しい印象だったので..)今後資料を作る機会があれば今日の講座を生かして誰でも見やすいものを心がけていきたい。
- ・今日のCUDの講座は半日ではなく一日コースでじっくり学べる機会があればと思います。又、私は大学に勤務していますので、学生にも是非CUDの考え方を知ってもらいたいと思いました。ありがとうございました。
- ・座学のみでなく、実際に作成したチラシについてご意見を聞かせていただくことができ、とても貴重な機会となりました。今日学んだ内容を今後のチラシ作成にいかしたいと思います。
- ・グループワークの時間をもっと増やしてほしい。もうあと1時間ぐらい増やしてもよいかもと思った。
- ・目立たせようと黒文字に赤文字を交えても、同一色にしか見えない。中学の時に美術で習った心理補色で赤と緑を使いがちだが実は同色に見えてしまう。とても有意義な講義でした。特に命に係る災害対策デザインに関してはより一層の配慮が必要だと強く感じました！！
- ・色の強弱や配色などは、ポスターを作るうえで見分けやすいものを意識して作ってきました。自分は色覚にも障害がある人もいることを初めて知ったとともに、色の使い方をより学ぶ良い機会となりました。
- ・今後広報物を作成する際は、アプリ等のツールを活用しながら誰に対しても正しい情報が伝わるように意識していきたいと思いました。
- ・今後の印刷物のデザイン案のチェックの時に生かしたい。

- ・自分自身が難病多発性硬化症になってしまい足に障害が今はあります。医師が多発性だから次は目にくるかもしれませんがよと言われており気になりますし、色弱の見え方がメガネフィルタでも、初めのメガネの体験でとてもよくわかりました。この研修に参加できてよかったです。とても理解しやすい研修でよかったです。体験できてよかったです。1人〇〇〇うんど落ち込んでる場合ではいけないあと反省しました。ポスターもこれからはきちんとみようと思います。乱筆乱文申し訳ありません。(〇〇〇〇〇〇〇〇)
- ・目立たせたり、修正するカラーとして使いがちな赤色には注意して使う必要があるということがよくわかりました。2時間という短い時間でしたが、ワークや色弱当事者の方のお話を聞く時間がとても多く、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・今後の広報誌やちらしの制作時に参考になる内容でした。「赤色が目立たない」ことは驚きでしたが、今後使用する際には気をつけていきたいと思います。
- ・広報誌や広告物に限った話ではないですがパワーポイントによるスライド作成等の場面において、赤字強調というのははすごくやりがちな色使いであるにも関わらず、色弱者からすると黒字に赤字強調というのは見え方が全く違うのだという気付きがありました。パワポ作成の場面において身に染みついた技術だったため、今回の講座を通して意識を改めることができました。
- ・以前の職場で、同僚が色弱で、作った資料の「見分けがつかない」と言っていたのがずっと引っかかっていたので、今日のような講座に出席できたことを嬉しく思います。C型色覚の一人でも多くの人がP型、D型の色覚を実感することがとても大事だと思いました。
- ・過去に作成したリーフレット等、班で話し合う機会があったため様々な意見が聞けてとても参考になりました。同系統の色はかさならないよう配慮していたが、全く違うと思っていた赤と緑の色が似て見えると知り驚いた。
- ・①情報をしっかりと伝えることが最も大切であることに気づいた。②そのあと、色の使い方が正しいかどうか検討をする。③色以外のことをもって表現することを考える。線を引く、太い、細い、破線、空間をあける…表現力を追求していきたいと思いました。
- ・バリエーションや色のシミュレータを用いて色紙やパンフレットを見たことで、思っていた以上に色弱者の方は色の違いが分かりづらいことが分かった。今後パンフレット等を作る機会があれば、CUDを意識して作るようにします。
- ・「色弱模擬フィルタ」で色紙を色分けした際、緑色の区分別ができず、色見え方の違いにとっても驚きました。赤は目立つ色という認識でしたが、黒や茶色に見えてあまり目立た

ないことを知りました。赤と緑の組み合わせでも、濃淡によって見分けがついて分かりやすくなることを知りました。今後のちらし等作成時の生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

- ・実際に、色覚多様性(P型、D型等)がある先生方とお話をしながら、グループで交流しながら配色について考えることで、パンフレットを見るだけでは気づきづらい、多様な視点でカラーユニバーサルデザインについて学習することができました。今後パンフレットやポスターを作成する機会がありましたら、本日学んだことをしっかり活用するとともに、所属や普段の生活の中でも意識していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・強調色としてよく使用される赤が背景色によっては埋もれてしまうのがメガネ(バリエーション)で体験できたことはよかった。ただ、「赤」を「青」に変えてしまって一般の人の注意を引かなくなって意味をなくしては、本末転倒となるケースもあるとの先生のお話が印象的だった。同じ「赤」でも明度や彩度、白抜きなど工夫し、みんなに分かりやすいものになるのが大事なのですね。
- ・赤や緑、ピンクなどの色が、PやD型だと似たような色に見えるという点と、逆に黄色や青色はきちんと見えているという点に驚きました。今後も活かしたいです。
- ・バリエーションで今まで話に聞けなかった色弱の見え方を体験できたのがとてもよかった。また、当事者の方の見え方もフランクにお話いただけて、より興味を持つことができた。色弱の方が分かりやすいデザイン、色使いと、C型の自分が素敵だと感じるデザインと両立させるのがとても難しいと感じた。
- ・講義だけでなくワークショップで実際に体験することが出来たのがよかった。講義の内容をレジュメやスライドを紙にしたもので配布いただけるとうれしかったです。
- ・CUD認証マークについて認証方法等もう少し聞きたかったです。講座のパワーポイントも配布いただけるとありがたいです。
- ・実際に作ったちらしを先生に見ていただいてアドバイスをもらったのがとても良かったです。ありがとうございました。
- ・赤があまり目立たないという事は知らず、単に強調するのに便利だという事で多用してきた。黄色のアクセント色を使ったり、文字の大小など色に頼らず、またツールを活用して印刷物を作成したい。知らないという事は恐ろしいと感じた。合理的な配慮は行政運営をする立場は、当然求められるので、この知識を得たことはとても有意義でした。
- ・色弱のタイプによって、P型、D型、T型と見え方が大きく異なることが分かった。認識しにくい色を使用する際は境界を黒や白で明暗分けすることで見やすくなることを学んだ。

- ・模擬フィルタを使うことで、当事者の方の見え方を体験でき分かりやすかったです。よく赤字で強調するが、黒のように見え、ほぼ意味をなさないので驚きでした。各局の広報物により、当事者の意見を直接聞くことができ、大変貴重な機会だった。
- ・今まで担当者の感触のみでデザインを考えており、色弱者の見え方を考えたことがなかったため、新しい視点を身につけることができとてもよかったです。今後デザインの際は必ずこの考え方を活用し、他の職員にも広めていきたい。

以上

(2023/09/03 作成)